

遙か昔の時の遺産

国見町史跡・文化財マップ



表紙 石原晃雲(画家、日本美術会員)奥州合戦800年を記念し制作した「出陣」の図で、阿津賀志山を背に雑兵の出陣を表した。

福島県 国見町教育委員会

所在地 〒969-1761 福島県伊達郡国見町大字藤田字観月台15

電話 024-585-2676(国見町観月台文化センター内)

URL <http://www.town.kunimi.fukushima.jp/kangetsudai/>

■ 国見の歴史 ■

国見町における人類生存の痕跡は古く、大木戸の中山遺跡から出土した遺物などから、一万年以前の旧石器時代にさかのぼる。縄文時代になると遺跡の数は増加し、高城の岩淵遺跡・小坂の川原遺跡など主として台地上に分布をみている。紀元前3世紀には、この地方にも稲作を伴った農耕社会である弥生時代を迎え、石包丁や大型蛤刃石斧を出土する光明寺の山田遺跡・石母田の割田遺跡などが知られる。やがて農耕生産によってもたらされた貧富の差は階層の分化を促し、5世紀頃にはこの地域を支配する豪族が出現し、古墳時代となる。町内には塚野目第1号墳を主墳とする塚野目古墳群をはじめ、森山・大木戸などに古墳の構築がみられ、県下でも有数の古墳地帯をなしている。

古代のこの地方は陸奥国信夫郡に所属し、伊達郷と呼ばれた。8世紀頃には東北地方でも有数の規模を持った条里制による開田が徳江・塚野目などの平野部ですすめられ、大木戸窯跡群では須恵器が焼かれていた。奈良時代になると、施回花文や蓮華文軒丸瓦などを出土する徳江廃寺が創建され、高城の山居遺跡では製鉄が行われていた。11世紀頃伊達郡は信夫郡より分立し、古代末期には奥州藤原氏の支配下におかれた。

文治5年(1189)藤原泰衡が源頼朝の率いる鎌倉軍を迎え撃った阿津賀志山の戦いは、奥州合戦最大の激戦であり、この時に築かれた二重堀と呼ばれる防塁跡が残されている。奥州合戦の戦功により伊達郡を賜った中村朝宗は、常陸国より移住し伊達氏と称する。伊達政依は伊達五山の一寺として光明寺を建立し、始祖朝宗夫人の菩提を弔う。また徳治3年(1308)には、元の帰化僧一山一寧の書による石母田供養石塔が建立されている。南北朝の動乱期、南朝軍の拠点であった藤田城は、貞和3年(1347)足利尊氏方の攻撃を受け、靈山城とともに落城した。室町時代の中頃、伊達成宗は梁川城から小坂の小屋館へ隠居し、没後は松音寺に葬られた。伊達氏家臣の富塚氏の森山館や石母田氏の石母田城など多くの城館が構築されたのは、鎌倉時代から室町時代にかけての時期である。

天正19年(1591)伊達政宗は豊臣秀吉の奥州仕置により米沢城から大崎岩出山城(宮城県大崎市)へ移り、この地方は蒲生氏領になり、次いで寛文4年(1664)まで上杉氏の支配下に置かれた。この時期以降国見町の村々は、幕領・福島(本田)藩・桑折(松平)藩・足守(木下)藩・仙台(伊達)藩預領等、支配の変遷を繰り返しながら明治維新を迎えた。この間寛永10年(1633)には西根上堰が開さくされて水田の開発が進み、藤田・貝田・小坂宿は奥州道中・羽州街道の宿駅として賑わい、徳江川岸からは江戸への御城米の積み出しが行われていた。幕末期に岩見・生野と並び日本三大銀山のひとつとされた半田銀山は、採鉱域を北に広げ、泉田の二階平や矢筈山にも開坑し、盛況を呈した。寛延2年(1749)桑折代官の暴政に抗した農民達の信達大一揆が発生し、慶応2年(1866)には信達両郡の百姓が物価の引き下げなどを要求して世直し一揆を起こし、町内でも打壊しが行われた。

明治維新後の国見町は、中村藩民政取締桑折県・南部白石藩の支配となるが、廃藩置県によって福島県の管轄となる。明治6年(1873)には泉田小学校が開校され、同9年(1876)東大窪と西大窪の両村は村名を高城・大木戸村と改称した。同22年(1889)市町村制が施行されて旧村の合併が行われ、泉田・小坂・鳥取・内谷村は小坂村、藤田・山崎・石母田村は藤田村、森山・徳江・塚野目村は森江野村、大木戸・高城・貝田・光明寺村は大木戸村、東大枝・西大枝・川内村は大枝村として発足した。明治20年(1887)上野・塩釜間に鉄道が開通し同33年(1900)には藤田駅が開業している。大正4年(1915)藤田村は町制を施行して藤田町となった。昭和29年(1954)町村合併促進法によって藤田・小坂・森江野・大木戸・大枝の町村は、合併して国見町となり、同年東大枝地区が梁川町に編入され、境界の一部を変更し現在に至っている。

はんだぎんざんにかいひらこうぐちあと

① 半田銀山二階平坑口跡

日本三大銀山のひとつといわれた半田銀山の一部をなしており、嘉永7年(1854)幕府によって中敷からの排水用として開坑されたものである。桑折・国見町内で現存する数少ない坑口跡。



きゅうしゅうかいどう こさかとうげ

② 旧羽州街道 小坂峠

小坂峠(441m)は国見町と宮城県白石市との境に位置し、近世において出羽国諸大名の参勤交代、御城米の輸送等に利用された街道跡である。旧道の東側には慶応2年(1866)に開削した新道がある。

現在の小坂峠越えの道路は昭和47年(1972)に完成した主要地方道白石・国見線である。



だてけじゅうにだい だてしげむねのはか

③ 伊達家12代伊達成宗の墓

伊達家12代伊達成宗は、晩年梁川城から小坂の小屋館に隠居した。その近くの寺家の地に成宗の菩提寺「五峯山松音寺」が建立されたといわれ「伊達兵部少輔成宗之墓」と刻まれた墓がある。



8

内谷春日神社(太々神楽)

大字内谷春日神社に伝わる太々神楽は明治15年(1882)9月19日の第一回奉納が行われ、昭和60年(1985)3月19日には国見町第1号の無形文化財に指定された。

太々神楽発足当時は、秋の例大祭には3日間通しで奉納した記録も残っており、他町村の神社の祭礼に招かれるほどに洗練された舞であったと語り継がれている。

地域の方々が心の触れ合いと、明るい地域社会づくりを目指し、氏子一同の昔をしのび懐かしむ声が保存に対する強い要望となり、昭和57年(1982)太々神楽保存会を設立した。保存会の中に楽人部を設け、古老楽人の熱心な指導と若い楽人の献身的な努力により、舞数28座を保存継承している。毎年、4月第3日曜日に伝統ある神楽が奉納されている。



12

旧佐藤家住宅

きゅうさとうけじゅうたく

県指定重要文化財

近世中期のこの地方における本百姓の標準的な住居である。この建物は国見町小坂字木八丁にあったもので、昭和47年(1972)に現在地に移転復元された。

間取りも単純で、広い土間、大黒柱や曲木を用いた梁、三方大壁の手法や出入口の大戸など、古い建築様式が遺されている。



13

藤田城跡

ふじたじょうあと

奥州合戦時に源頼朝が本営としたという。以後、伊達氏の一家藤田氏の居城。南北朝期に北朝軍の総攻撃にあい霊山城とともに落城。南北朝時代における東北地方の歴史解明にとって重要な史跡である。



おくやまけじゅうたく

14 奥山家住宅

国登録有形文化財

大正10年(1921)に建築された、この地方では数少ない和洋折中の接客空間を備えた木造の住宅建築である。西洋館は八角の塔屋を持ち、外壁はタイル貼り、土台は高い積石である。白亜の外壁は屋根、窓、玄関とよく調和し、均衡の取れた様式に、この時代における洋風建築の特色がよく残されている。



つかのめだいいちごうふん(はちまんづかこふん)

16 塚野目第1号墳(八幡塚古墳)

県指定史跡

塚野目古墳群の主墳で古墳時代中期の直径52mの張り出付円墳で周濠が巡らされていた。福島県中通り地方では、最大の中期古墳で、大型の朝顔型円筒埴輪が出土している。近くには、多くの石製模造品などが出土した、祭祀遺構である矢ノ目遺跡がある。



いしもだくようせきとう

17 石母田供養石塔

国指定史跡

徳治3年(1308)に僧智瑄が、先祖の追善供養に建立した板碑で、梵字と功德文が刻まれている。銘文は元の帰化僧寧一山の筆跡で、鎌倉時代における禅密合一の思想を表現した特異なものである。地元では俗に蒙古の碑と呼ばれ、周辺は満福寺の古刹跡といわれている。



18

いしもだじょうあと
石母田城跡

伊達氏譜代の家臣石母田安房守光頼の拠った複郭式の平城跡。城跡の各所に土塁や水堀跡が遺され、往時の城跡景観をとどめている。また、この城にまつわる伝説を秘めた石母田石が城内にある。



20

きゅうおうしゅうどうちゅう くにみとうげながさかあと
旧奥州道中国見峠長坂跡

古来より奥州街道における要衝の地において、険阻な山坂として著名な国見峠の難所跡。俳聖芭蕉が「奥の細道」に記した『気力聊かとり直し、路縦横に踏んで伊達の大木戸をこす』を刻んだ文学碑がある。

現在もこの周辺はJR東北本線、東北自動車道、国道4号線等、東北地方を北上する主要な交通網が集中して通る地域である。



25

ぬまたじんじゃ ほんでんちょうこく
沼田神社本殿彫刻

徳江の旧船場跡近くにある沼田神社本殿の彫刻は、唐様の優れた手法の作品である。

伝えによれば、伊達郡高成田村の仏師長谷川雲橋、雲谷親子の作とされる。弘化年間(1844)ごろの制作。



もりやまだいよんごうふん

30

森山第4号墳

古墳時代末期の円墳4基からなる森山古墳群の1つ。円墳中央部から横穴式の胴張り型石室が検出され、銀環や直刀などの副葬品が出土した。この石室部分に覆屋を設け、保存と見学の便に供している。



あつかしやまぼうらい

33

36

阿津賀志山防塁

国指定史跡

文治5年(1189)奥州合戦における、最大の激戦場となった阿津賀志山に、奥州平泉の藤原泰衡が源頼朝の率いる鎌倉軍を迎撃するために築かれたもので、この山の中腹より西大枝の石田へ続く約3.2kmの薬研堀状の防塁跡。地元では二重堀と呼ばれている。



37

具田姥神沢旧鉄道レンガ橋

かいだうばかみさわきゅうてつどうれんがばし

明治20年(1887)に開通した黒磯～塩釜間の当初の路線跡で、赤レンガ積み橋梁遺構。

当時、文明開化のシンボルとされた汽車がこのレンガ橋を通っていたが、排煙が原因の火災から路線変更がされている。



39 御滝神社の湧水

自然の湧き水で豊かな実りを水神に祈った古い信仰を今に伝えている。湧き水からの清流は光明寺の村を潤し、古い時代から水田(約20ha)が開けていた。

昭和61年(1986)8月「ふくしまの水30選」に認定されている。



44 岩淵遺跡

いわぶちいせき

高城の中山原にある縄文時代中期(4500年前頃)の竪穴式住居跡。住居は円形で直径7.4m、内部には直径3.2mの全国でも最大級の複式炉がある。現在、この遺跡に縄文時代の竪穴式住居を復元した。



にしおおえだしんざんじんじやのかいまいえま

52 西大枝深山神社の廻米絵馬

幕領時代、西大枝村名主佐藤浅次郎が廻米船の安全を祈願し、画家佐州に描かせた絵馬。荒浜で年貢米を積み替えている作業情景を描く。

